

お題解決プログラム

学生がデザインするまちづくり

[ここにしかない、とがった街]

Ginowan Mirai Laboratory 2020 !

はじめに

私たちは、宜野湾市の普天間地区の課題について、行政職員、地域の方々からお話を聞き、実際にまちを歩き、インタビューを行い、課題や資源などの情報を集め、分析し、ディスカッションを行いながらこの企画案を考えました。

私たちが、1番時間を割いたのは、

- ✓ **なぜ（WHY）この企画をするのか**
- ✓ **差別化（どこにもない、沖縄一を目指す）**
- ✓ **本気で実現する**

という視点で、この企画を考えました。

ぎのわん未来研究所

Ginowan Mirai Laboratory 2020 !

「学生がデザインするまちづくり研究所、ぎのわん未来研究所、通称（ぎのラボ）を設立し、宜野湾市を、どこにもない、沖縄一の「とがった街」にします。

宜野湾市には基地とターウムしかないとは言わせません。

「普天間高校×琉球大学×まちづくり」

宜野湾市への企画提案

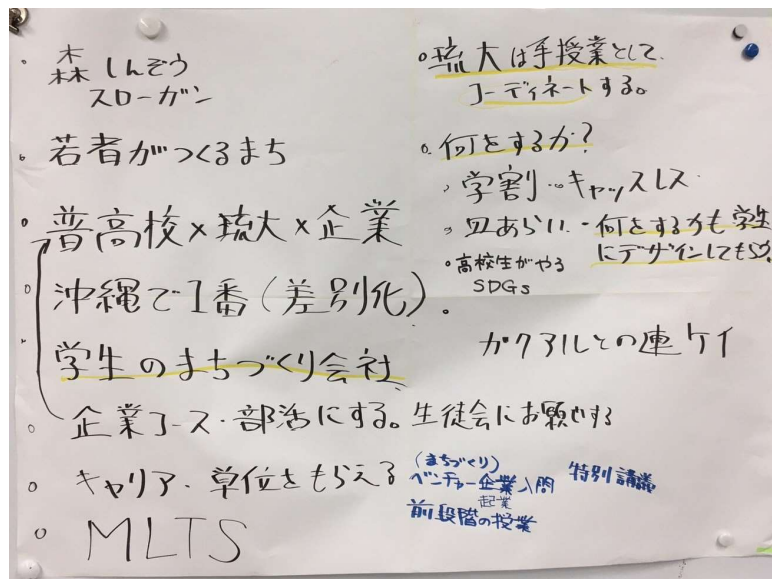
ご提案したいこと

1. 企画を実施する背景 （データ分析）
2. 企画の目的 （なぜこの企画が必要なのか）
3. 企画のコンセプト （4年後の目指すべき姿）
4. 企画の具体的な内容
5. 企画の要件
6. 企画のスケジュール
7. 予算

1.企画を実施する背景 (データ分析)

データ分析を行った結果、宜野湾市の強みは学生が多いまちということが分かりました。しかし、現状は、宜野湾市の資源（リソース）である「若い学生の力」をまちづくりに活かしきれていない。宜野湾にしかない資源（リソース）を活かし、[ここにしかない、とがった街]を実現する企画を提案します。

※宜野湾市は、琉球大学・沖縄国際大学・普天間高校・宜野湾高校・中部商業・琉大付属小中学校・カトリック小中学校など多くの学校が立地している。





フィールドワークで情報収集



企画政策課より地方創生について



事業者にインタビュー



産業政策課よりヒルズ通り会について



ヒルズ通りをフィールドワーク



カフェの方から現状と課題を聞き取り



西普天間推進室より基地跡地計画について

| 普天間地域のSWOTクロス分析

	強み - 立地が良い - 普天間高校 - ガクアル - オシャレなお店が多い	弱み - 景観が悪い - コンセプトが不確立 - 街並みがNot！バリアフリー - 往復することができない
機会 - 西普天間地区の有効活用 - 国際医療拠点 - アクセスがいい	積極的戦略	改善戦略
脅威 - 浦添、北谷、北中の成長 - 客が吸われる - 差別化されていない	差別化戦略 普天間高校×差別化	撤退戦略

2.目的 (なぜこの企画をするのか。どのような街にしたいのか)

「地域に愛着と誇りが生まれ、みんなが住みたいまち」を目指す。
宜野湾市にしかない資源（リソース）である、次代を担う若い学生が、まちの未来を考えまちづくりを実践することで「どこにもない、とがった街」が実現する。

宜野湾市の強み「学生が多いまち」



「普天間高校×琉球大学×まちづくり」



「どこにもない、とがった街」

3.企画のコンセプト （4年後の目指すべき姿）

琉球大学生と普天間高校生がまちをデザインする

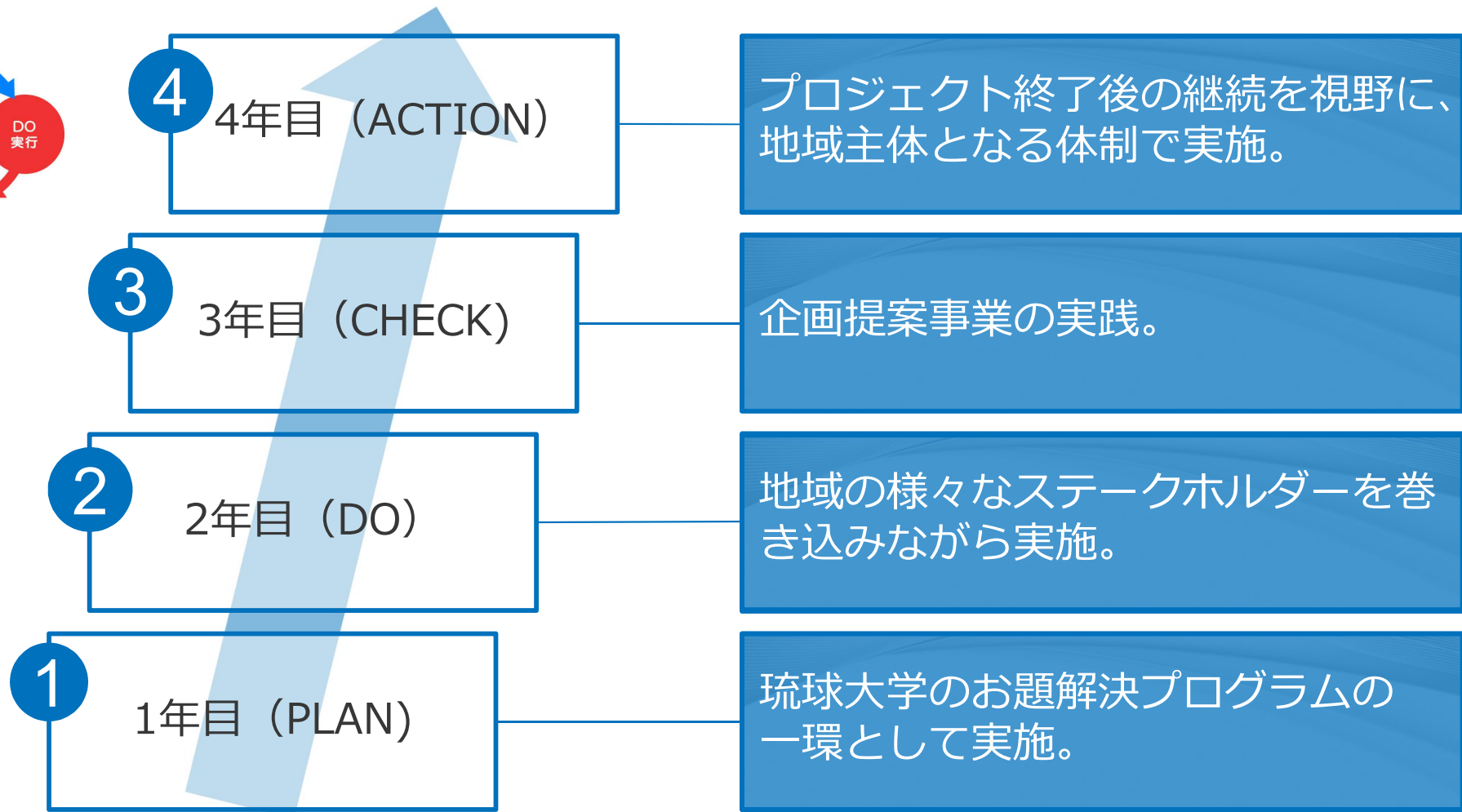
「まちづくりの人材育成プロジェクト」

本プロジェクトは、4年間の時限プロジェクトです。4年後には、

- ① 高校時代に受講した生徒が、大学生になり高校生をコーディネートしている。
- ② 中学生や小学生が、このプログラムに参加したいと思っている。
- ③ この全国初の尖った取り組みが有名になり、ほかの自治体から視察が殺到している。
- ④ まちづくりが好きで、自発的に参加したいという住民や企業、学校などが後をたたない。
- ⑤ 持続的にまちづくりが行われ、人材も資源もお金も循環している状態を目指す。



企画のロードマップ (4年間の時限プロジェクト)



4.企画の具体的な内容

- ✓ 琉球大学のお題解決プログラムの一環として、宜野湾市普天間をモデル地区に選定し、琉球大学生と普天間高校生が、まちづくりプロジェクトのメンバーとして参加し、実際に学生が街をデザインする

「ぎのわん未来研究所」 を立ち上げる。

- ✓ 地域住民、企業・学校などと共に活動する実践（フィールドワーク）と、まちづくりについての知識や情報を得るための座学を組み合わせ、最終的にまちづくりの企画提案を行う。

5.企画の要件

運営体制：1年目は、琉球大学・市・地域公共政策士（2年目以降増やしていく）

対 象：

普天間高校生	（希望者・生徒会など）
普天間高校	（2年目からは高大連携の一環で実施し、教員もサポート）
琉球大学生	（お題解決プログラムを受講している生徒（単位取得））
琉球大学	（市との連携協定の一環。松本先生、畑中先生がサポート）
宜野湾市	（担当課：市民協働推進課。その他関係部署と連携）
地域住民	（事業者、自治会、教育関係機関など）

実施時期：令和2年度（2020年度） 10月～2月末（約4か月間）

※琉球大学のお題解決プログラムの実施時期に合わせています。

実施場所：普天間のカフェ、空き店舗、公共施設等

「ぎのわん未来研究所」



大学生

- ✓ 就職に有利。（市役所など）
- ✓ 実践的なインターンシップ。
- ✓ 高校生・社会人との交流。
- ✓ 課題発見、解決能力の養成。

高校生

- ✓ 大学進学に有利。
- ✓ 実践的な学び。（総合学習）
- ✓ 大学生・社会人との交流。
- ✓ 課題発見、解決能力の養成。

地 域

- ✓ 地域活性化
- ✓ 大学の知識・ノウハウを活用。
- ✓ 若い人材の活用。
- ✓ 地域の人材育成

行 政

- ✓ 地域活性化。
- ✓ 地域リーダーの発掘・人材育成
- ✓ 行政施策への市民参加
- ✓ 協働のまちづくりの実現

6.スケジュール（事前準備期間）

4月～7月

- 琉球大学×地域公共政策士×宜野湾市で事前の打ち合わせ

7月～9月

- 普天間高校と地域の方へ募集開始

9月～10月

- ぎのわん未来研究所(ぎのラボ)を発足

10月～2月

- 事業期間(4ヵ月間)

6.スケジュール（事業期間）

スケジュール	内容	目的
第1回 180分	ワークショップ	ぎのラボと地域の皆さんで意見交換し、認識共有とアイデア出しを行う。
第2回 180分	普天間のフィールドワーク	ぎのラボが、具体的に地域を見聞きして理解する。
第3回 180分	円卓会議	より多くの地域の意見や思いを把握して整理する。
第4回 180分	先進事例の講演会 ワールドカフェ	地域が望む未来やそれぞれの幸せを共有し、みんなで夢を描く。
第5回 180分	チームを作る（企画ごとに）	アイデアの収束、企画立案。
第6回 270分	企画デザインの期間	チームで企画を練る。
第7回 90分	発表	
第8回 90分	振り返り	振り返り及びアンケート調査実施

※地域公共性政策士の授業である、ファシリテーション及び、地域円卓会議で学んだことを実践する。

7. 予算

予算総額 0円～500,000円

(琉球大学の授業の一環として実施)

項目	金額	詳細
講師謝礼金	100,000	先進事例講師謝礼金
消耗品	10,000	
印刷製本費	10,000	チラシ、報告書など
会場使用料	80,000	カフェ、店舗の使用料
委託料	300,000	地域円卓会議
合計	500,000	

最後に

ご提案させていただく「学生がデザインするまちづくり研究所、ぎのわん未来研究所、通称（ぎのラボ）を設立して、次代を担う若い学生が、宜野湾市の未来を考え、まちづくりを実践し、どこにもない、沖縄一の「とがった街ぎのわん」を実現します。

学生がデザインするまちづくり

ここにしかない、とがった街

以上が、私たちの提案となります。ご清聴ありがとうございました。

